

## 第3回 草津市教育情報化推進懇談会 議事録

### ■日時

令和4年2月21日（月）10時00分～11時00分

### ■方法

オンライン会議（配信場所：草津市役所6階 教育委員会室）

### ■出席委員

松尾委員、加納委員、木村委員、角委員、太田委員、柳澤委員、奥村委員  
（オブザーバー）草津市ICT戦略特別推進員 吉田氏

### ■事務局

教育部 作田理事、菊池副部長（学校教育担当）兼学校教育課長  
児童生徒支援課 柴原課長  
教育研究所 藤井所長  
学校政策推進課 上原課長、糠塚ICT教育スーパーバイザー、尾関課長補佐、  
西村専門員、山下主査

### ■議事録

10:00

事務局

皆様、本日は公私とも御多用のところ、御出席をいただきありがとうございます。ただいまから第3回草津市教育情報化推進懇談会を始めさせていただきます。

本日は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、オンライン会議で実施させていただいております。オンラインの60分という短い時間にはなりますが、今年度最後の懇談会になりますので、いつもどおり、ぎっくばらんに多様な御意見・アドバイスをいただけますと幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは加納座長、議事進行をお願いいたします。

座長

よろしくお願いいたします。

では次第に従って、議題1の草津市学校教育情報化推進計画 第2期計画について、事務局から報告をお願いします。

事務局

<草津市学校教育情報化推進計画 第2期計画について  
3月上旬に公表予定である旨、報告>

座長

ありがとうございました。議題1に関しては報告になるので以上とい

たします。

続いて、議題2について。次年度からは、策定した計画に基づいて推進するという次のフェーズになりますので、令和4年度どんな取り組みをしていくのかという実施計画ですね。こちらについて事務局から説明をお願いします。

事務局

<資料1に基づいて令和4年度実施計画について説明>

座長

ありがとうございました。

今事務局から説明いただいた事業についてでも結構ですし、それ以外の事業でも結構です。御意見や、こんなこともしてみたら良いんじゃないか、ということをお話しただければと思います。

最後ですし、この資料の中にないようなことでも、ICT教育等に関わって普段思ってたことを言い残すことないようにぎっくばらんにお話しただけたらと思いますがいかがでしょうか。

委員

事業説明ありがとうございました。これから計画に基づいて事業を進めることになるわけですが、ネガティブな意見も既に出てきています。

「学校パソコン、もう返したい、教師の本音は『紙と鉛筆で』」というタイトルの、先週の日経新聞の記事を共有させていただきます。学校現場にICT機器を入れるというのは2009年にもスクールニューディールというのがあったのですが、それがあまり上手くいかなかったのがトラウマになって今回も上手くいかないんじゃないか、という論調です。ただ「使わせないリスクの増幅である」、「世界ではデジタルシチズンシップ教育へと流れている」とも書かれています。これはGLOCOMの豊福先生が主導しておられる取組で、情報機器を実際に活用する中で責任ある良識ある使い手としてのユーザーを育てていくという考え方ですね。私はこっちの方が良いと思っていて、使わせないというのが一番良くないです。使わせないことには何も進まないですので、ぜひ使う機会をたくさん子どもたちには確保してあげて欲しいと思います。

そのためには繰り返しになりますが教員のサポート体制が非常に重要かと思っていますので、ぜひ研修をたくさん実施して学校の先生もサポートしてもらえればと思います。この2、3年コロナ禍でオンラインワークが進む中で、私も現場の教員の一人として、教員一人一人もスキル格差がとんでもなく広がってきているというのが実感です。この先生に仕事まわしたら速いからどんどんお願いしようという先生から、この先生はあかんと最前線の仕事から切られていっている先生というのがおられると思

います。公立学校の場合は特に行政のサポートというのが絶対必要になると思っていますので、どうぞよろしく願いいたします。

座長

ありがとうございます。

日本がガラパゴス化しないようにというイメージでもあるのかなとお聞きしていました。デジタルシチズンシップ教育は諸外国では本当に進んでいる印象を受けていますので、日本が置いてかれるとよくない。ネットいじめとかに関しても、その教育のところで防げることが多いというのが諸外国の理解なのかなと思います。

委員

私からは2点です。先ほど委員がおっしゃった、教師の研修もそうなんですけれども、オープクエスションの形で、現場の先生方に「何か困っていることはありますか」と尋ねても、実際に困っているかどうかの判断が難しい方もいらっしゃるのではないかと思います。もちろん、現場で困っていることや使いにくい・難しいことを聞き取ってアドバイスをすることも大事だと思いますが、例えば、現場から「できるかどうかわからないけどICTでこんなことってできるの?」ということ聞き取るなどコミュニケーションをとっていただきたいと思いました。

2点目は、基本目標4の到達目標で「デジタル化・ペーパーレス化が進んで利便性が向上したと思う保護者の割合を増やす」ということについてです。参加報告やアンケートなど、家庭から学校が聞き取ることであると思いますが、そういったことに関しても、例えばフォームに入力することで回答ができるような、学校からの発信をペーパーレスにして保護者が受信するだけではなくて、保護者が発信して学校が受信する、データ収集の方のペーパーレス化も是非とも進めていただきたいと思いました。

座長

ありがとうございます。

初歩の段階だと、「何がわからないのかわからない」とか「何に困っているのか言語化できない」というようなフェーズがあると思われるので、そこを慮ることが全体の底上げに繋がるのでは、ということですね。

それから、困っていることを解決するというよりも、やりたいことがやれるようになる、できるようにするというのは、すごく豊かな教育に繋がると思いました。スーパーバイザーやリーダーが「こんなことやりたいんだけど」という相談に乗ってくださるといいなと思いました。「ICTでできますか」と聞かれたらほとんどのことに関してはイエスで返ってきそうですよね。むしろ、Howの質問、「どうやったらできるようになり

ますか」っていう質問に答えてもらえるといいかもしれないですね。

ほかはいかがでしょうか。

全体を見渡すと、これほとんどすべての主語が教育委員会になっているという理解で合ってますでしょうか。結構項目が多いなと思っていて、やり切るには、教育委員会側にも相当マンパワーが必要だなと思ったので、もうちょっとリーダーやスーパーバイザーとかと分散的にできるといいのかなと思いました。

具体的には、基本目標3-(1)の「リーダーによる校内研修会」は、教育委員会ではなく、主語がリーダーです。こういう形で教育委員会以外が主語になるものを中期的には増やすという目標を持っておられると教育委員会の負担が減るだけじゃなくって、より普遍的に、実施されていくことに繋がっていくと思いました。

ほかいかがでしょうか。

委員

これだけたくさんボリュームのものをみると、計画も本当に綿密に計画されていて、細かなところまで配慮されているなっていうのをとても感じました。現場とのやりとり、保護者とのやりとりが大変な作業になっていくんじゃないかなと見せてもらいました。

保護者としては、オンライン授業など子どもたちが家庭で取り組んでいる様子を見ていて、前にも申し上げたかもしれないですが、こういう時はどうしたらいいとか、こういうことはしないっていう、一定のルールを保護者もちゃんと理解しておかないと、子どもに一声かけることも難しいなあと思いました。

保護者との連携をICT化していくと計画されている部分も、その部分だけでも保護者に「こういう目標を立てている」とお知らせをしていただけだと、保護者の理解も進んでいくような気もしました。

3学期に入って、小学校から欠席連絡をオンライン上でできるようになったというお知らせが来ました。うちの子はあまり休むことがないので、まだ活用はしていないですが、今までは連絡しようと思っても今頃打ち合わせかなとか悩んでしまうところを、オンライン上で送れるとなると非常に手軽になったというか、こちらも連絡がしやすいですし、どんどん進んでいるということを感じます。そのときにどういうことを注意したらいいかということもまた示していただけるとありがたいと思います。

今、高校の非常講師として仕事をしていますので、自分自身が働く側で考えると、やっぱり校務の軽減というところに非常に魅力を感じます。特に自動採点の実現すると、なんて事務的な負担が減るんだろうとちょっと

とわくわくしたところもありました。教員の研修、必要な部分はたくさんあると思いますが、子どもたちが小学校からパソコンやオンライン授業に慣れてきて中学校に上がり高校になりっていうと、やっぱり教員もレベルアップしていかないとと思います。指導者側が遅れていると、子どもたちも興味を示してくれなくなってしまうので、その辺自分自身も緊張感を持ってやっていきたいなと思いました。

座長

ありがとうございます。

保護者の立場と現場の立場と両方から応援をいただいたと思います。

保護者の話でいうと先ほど委員がおっしゃられたように、同期型の電話みたいなツールって、「今電話かけたら御迷惑をおかけしないだろうか」みたいに慮ってしまうことが多い中で、非同期型のツールになると、気兼ねなくいつでも送っていただいて結構ですよ、先生は見れるときに見えていますから、という形になりますよね。そういうことが見える化されたチラシとか周知徹底があると、保護者も「こんなふうになるんだな」と理解いただけるのかなと思いました。

いずれにしても、このICT周りは、御家庭で随分整備していただいているところも大きいかと思いますので、保護者の方々っていうのは重要なキーになるかと思います。ですので、保護者の方々に対してもしっかりと周知徹底できるといいなと思います。

現場の話が少し出てきているので、現場の声を、小中いずれかからお話しただけるとありがたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員

計画を見て、そして皆さんの御意見も聞かせていただいて、現場としてものの御意見もそうだなと思って聞かせていただきました。

私からまず一つは、現場の教師の方から見ると、やはりコロナ禍とか今の学校の実態の中でもうICTを使わざるを得ない状況になっています。工夫しながらなんとか活用している中で指導力を高めていっているというのが一つの現場の実態です。ただ、これからさらにどんどん進んでいくICT教育についていくためには、まだまだ現場としては、教員の研修が必要ですので、そういうところを全体としてカバーするための市として方向性を出してくださっているのは大変ありがたいことです。

併せて現場も私たち自身が、学校全体で向上していく気持ちを持って、そしてあとセキュリティー、情報モラルも含めてそういうところもしっかりしていきたいというふうに考えています。

あと、先ほど出てきました家庭との関わりについてですが、前回も保護者の方に感謝しますという話をしたのですが、本当にそういう意味では

現場では家庭任せになっているのが状況でした。それぞれの家庭の教育力によって今まで支えてきていただいたというところがあり、方向性など学校としてまだまだ発信力が弱かったというのは感じますので、その辺りをもっと家計と連携しながらより効果的に進めていきたいと思っています。

最後に、学校現場としては、ここには載っていないのですが、現状の維持管理の中で、タブレットが傷んできているという物質的なことも出てきています。そういうところで補償というか、どうしていくのかなというところが、たちまち現場としての課題です。また、この充実した良い環境の維持管理もあわせて必要になってくるかと思えますので、お願いばかりですが、学校としてできることをもっともっと考えてやっていきたいと思っています。

座長

ありがとうございました。

保護者の目線も学校の目線も基本、同じところを向いているということはずごく感じましたし、それが推進力になって、細かい不具合はいろいろあるのかもしれないですけども今後解消されていくのではないかというようなイメージが個人的には持てました。

もう一つは、前回からも話題になっているインフラ整備ですよ。オンライン環境に適したインフラ整備の部分は行政が一番得意としているところかと思えますので、オンラインに適した机のお話も前回出ていましたし、今回であれば、機器の故障に対応する補償の話ですね。現場としては1台でもタブレットとかが壊れてしまうと、非常にやりづらくなってしまいます。また、自分のスマホが壊れて代替機を貸与された時をイメージしたらわかると思うんですけど、子どもも自分の物が壊れてしまって、バックアップ用のものを返されたりするケースもあると思うんですが、それが使いにくかったりするとかなりのフラストレーションがたまるっていうのは、すぐに理解できるかと思えますので、その辺のインフラ整備をどのようにしていくのかっていうのは改善課題なのかなと感じました。

このあたり、サービスプロバイダーの立場から見ると、どんな対処方法があるんでしょうか。

そうですね。機器の保守に関して言えば、全国的にもかなり課題にはなっています。子どもがタブレットを落としてしまってひびが入ってしまい、修理費がかなりかさんでいるといったことも非常にあると聞いておりますので、今後のことを考えるとそのあたりの補償の部分の契約について、その対象などそのあたりかなり手厚くいただくっていうほか

ないのかなというふうに思っています。児童生徒、先生、ないしはICT支援員など、どこに責任があるのかでもめている自治体もありますので、そのあたりの責任の所在や取り決め、保障の範囲みたいなところを今一度見直していただく方がいいのかなと思いました。

ちょっと別のお話で、先ほど先生方の負担、研修の負担のお話が出ていたかと思いますが、どこまで負担軽減になるのか、何とも言えない部分ではありますが、弊社からできることだけ少しだけ共有させていただきます。あくまで、弊社のソフトに限りっていう形で恐縮なんですけれども、御使用いただいている先生から参加申込みいただく形で、ちょっとした操作説明会をかなり頻繁に実施しております。そもそもここに申込むのはかなりICTに意識があって前向きに取り組もうとする先生方なので、そうではない先生方に対してのアプローチをどうするかっていう問題点はあるかなと思いつつ、他の先生方や教育委員会の負担を軽減するという意味でこういったところを先生方に周知してうまく活用いただくというのは良いのではないかなと思いました。

#### 委員

今ちょうど現場のサポートの話が出たので、また共有させてもらおうと、現場でのICTの普及には結構トリクルダウンするところがあると思います。つまり上位組織の取組が下部組織の方へ浸透して、下部組織のスタンダードとして流れていくみたいなたりクルダウン的な影響力の余波、伝わり方があるんじゃないかと思っています。

これは北海道森町っていうところで、人口1万5千人にも満たない小さい町ですが、自治体のパブリッククラウドの導入の先駆け的なところなんです。何が言いたいかというと、草津市がこれからICTをどんどん教育現場に入れていくんだというお話をされるのであれば、その元締めたる草津市あるいは草津市教育委員会という上位組織でも、ICTを用いた働き方、仕事のICT化に取り組まれたらいかがかなと思う次第です。

その際にやはり重要なことは、大変失礼ながら本日のこの会議においても、やっぱりオンライン会議慣れてへんのやなというところが大分目立っていると思います。やっぱりノウハウとか経験値を溜めてやっていかないとしんどいところがある。デジタルネイティブ世代の人たちが入職してくる時、これ確か前回も申し上げましたけども、ここの組織で働いても全然ICT使っていないから非効率的だからやめたっていうですね、そういう現場にならないようにしてもらえればなと思う次第です。

現場のサポートということで言えば、さっき委員から出た「何が分からないのかわからない人が多いのでは」という件、私その通りだと思います。なので私みたいなおせっかいの人間が横で見ててイライラするわけ

ですよ。なので、こういう勉強会なんかを開いてちょっとしたことですが、でも教えて差し上げているわけですね。なのでぜひ、学校現場の対応にも限界がありますので、どうぞ上位の組織である教育委員会や、あるいは自治体そのものが、ICTの率先的な働き方改革のリーダーであって欲しいと願っています。

座長

今のお話や先ほどのソフトの支援っていうのは多分両方ともプッシュ型支援に近い形ですかね。おせっかい型っていうような形かもしれないですけども、わからない人を見つけて、プッシュで支援していくっていうような形で行政でも割と最近注目されているかと思います。やっぱり支援が必要な教員がいるっていう認識の前提のもとで考えていくということもあり得るのかなというふうには思いました。

委員

今委員がおっしゃったことはまさしくそのとおりで、基本的には現場でコンピューターの操作に長けている人を集めてリーダーとして、そこから裾野を広げていこうという発想はずっと来てるんですけど、現場からすると、ちょっとコンピューターに長けている方がおられて、何かわからなかったらすぐその1人に聞く。そうなると、結局そのコンピューターが苦手な人に説明するよりも自分がやった方が早いからその仕事を受けてしまって、どんどんそのコンピューターができる人に仕事が回ってくるということが現実問題としてやっぱりあります。

そこを解消するには、どこまで現場でできるかわかりませんが、苦手な方を対象とした研修に召集かけて参加してもらってというのは必要なかなと思います。具体的に言うと、例えばエクセルでV-LookUpが使えるとか、ワードで差込みができるとかその2つできるだけでも全然仕事の幅が違ってきますので、これとこれとこれだけだという形で、絞った形の研修もありなのと思っています。

座長

ありがとうございます。現場ですでにいろんな経験を持たれていて、そこにピンポイントで絞ったような研修をプッシュ型でやっていくっていう可能性は十分あるかと思いました。

委員から先ほどショートカットの画面とかも見せていただきましたけれども、ああいうのも一度覚えればコストが非常に高いところかもしれませんが、そういう意外と細かな支援も必要だという認識になっていくといいのかもしれないと思いました。

僕が関連して思ったのは、学校の中で、すごくできる人から全然できない人まで、ある程度いるっていうのはもう仕方がないことだと思うんで

すが、その中でできない人が何%ぐらいまでだったら許容できるのか。また、できない人っていうのは別に何もかもできないわけじゃなくて、その人ができることっていうのが他にももちろんあるわけなので、うまく学校の中で役割分担できればいいんですかね。具体的には、例えばうちのゼミ生が卒業して新任で学校に行くと、ICTに強いのでICTの仕事を任せられることも多いらしくて、ただそのかわり理科の実験のやり方とかを先輩から教わっているみたいです。ギブ・アンド・テイクが成立しているようで、そういう形で世代間交流が生まれるっていうのは、それはそれで良いことなのかなと思います。そういう意味でも、新人がICTに強い可能性が高まってきていると思いますので、新人とベテランの先生方との交流だったり、もう一回り下のリーダーとの交流であったりだとか、そういう交流会みたいなのをうまく企画するだけでも、意外と促進されるのかなと思います。研修会をどのようにデザインするかっていうアイデアでした。

委員

いろんなところでしゃべっているのでここでもしゃべったかどうか忘れましたが、いいなと思うものの一つはこういう取り組みですね。これは福井県の鯖江市がやっている、オープンデータシティ鯖江プロジェクトというもので、行政に関わるデータをエクセル形式で出して、市民の方に自由にアプリを使ってもらおうみたいなものです。僕は草津市にはこういう動きを期待したい。つまり教育だけでなく、市民生活全般に関わるものが、ICTを使って便利になるという体験を積んでいただきたいと思っています。

もちろん教育委員会の上位の話になりますので、ここで決められる話ではないと思うんですが、ただそのときに大事なのが人です。先ほどの北海道の例もCode for Japanの山形さんという方が主導していました。鯖江もお名前を忘れましたが、確か非常に著名なプログラマーの方を呼んできて、その方にお任せしたとか。このあたりのことは委員がお詳しいので、委員バトンを次お願いします。

委員

はい。

私はCode for Kusatsuで活動してまして、Code for Japanと繋がって全国の地域でのシビックテック活動を情報交換し合うっていうような活動の中で、この森町の山形さんみたいな形の活動をしたり、お互いの地域に呼び合って研修してもらったり、一緒に手を動かして何かものを開発したりとかそういったことをしています。こういったマインドを広めたいから私たちと意見を共有しませんか

ってという形の活動をされている団体でもあるので、草津市もコンサルとかいうような形で、話を聞いてみてもいいんじゃないかなあとと思います。実績もある団体なので、またよかったら御紹介とか顔つなぎみたいなことはできるかと思っています。

座長

ありがとうございます。

教育のICT化っていうのは、すべてのICT化の中の一つのカテゴリじゃないかっていうのが大きな視点で御意見いただいたんだと思います。その時にこのCode for Japanなど多様な活動をされている方々との連携や、市全体の行政や議会の理解が必要になってくるので、非常に大きな取組にはなろうかと思っていますけれども、草津市の場合、議員の中にもCode for Kusatsuに明るい方などもおられるかと思っていますので、そういう形で、非常に進めやすい先進的な自治体の一つかと思いました。

時間になりましたのでこれで意見交換会をお開きにさせていただきたいと思います。関連なご意見ありがとうございました。

では進行を事務局にお返ししたいと思います。

事務局

座長、ありがとうございました。委員の皆様にも活発な御意見をいただき誠にありがとうございました。冒頭にも申し上げましたが、令和3年度草津市教育情報化推進懇談会は本日が最後の開催となりますので、最後に教育部理事 作田からひと言ご挨拶申し上げます。

作田理事

御多用のところ、また、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配される中、委員の皆様には、今年度3回にわたる懇談会に御出席いただきまして誠にありがとうございます。3回ともに活発に前向きな御意見をいただきましたこと、心より感謝しております。

お力添えいただき、本年度、無事に草津市学校教育情報化推進計画 第2期計画を策定することができました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

いよいよ春より、計画に基づきPDCAサイクルを回して、着実に実施・評価・改善を重ねることとなります。各事業の実施状況や成果については、この教育情報化推進懇談会に報告し、多様な御意見をいただきながら、施策の展開に反映させ、継続的な推進を図ってまいります。

委員の皆様におかれましては、3月末で委員任期となりますことが非常に残念ではありますが、皆様には引き続き本市教育行政に御支援と御協力をいただきますようお願いいたしまして、挨拶とさせていただきます。

事務局 | す。  
          |  ありがとうございました。  
  
事務局 |  ありがとうございました。  
          |  それでは以上を持ちまして第3回教育情報化推進懇談会を閉会とさせていただきます。皆様1年間ありがとうございました。

11:00 終了